

住

まいの防災対策&チェック

事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

家の中の安全対策

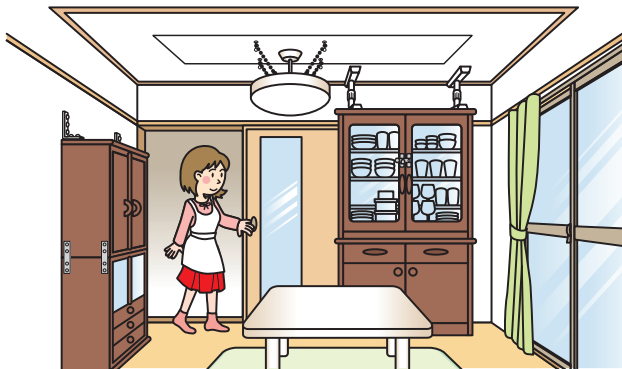
- 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる
- 安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

- 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



- 寝室、子どもや高齢者のいる部屋には家具を置かない

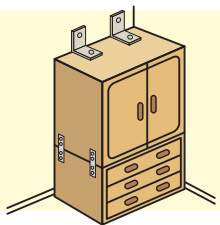
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

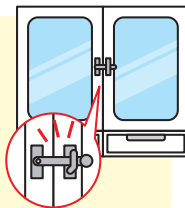
- タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



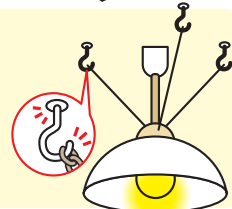
- 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



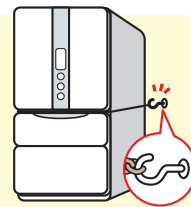
- 照明

チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



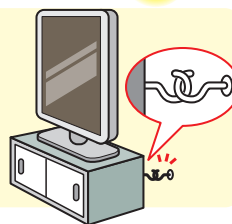
- 冷蔵庫

扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



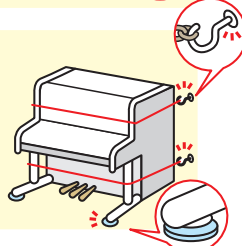
- テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



- ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の安全対策

- 屋根

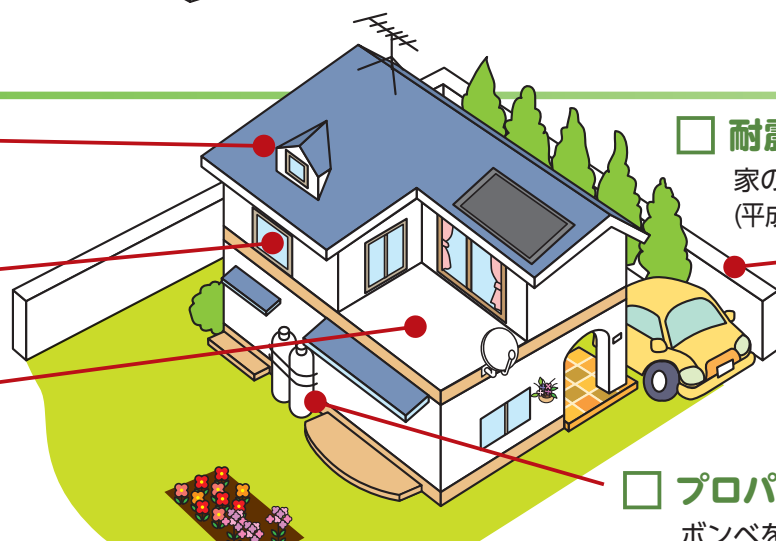
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

- 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

- ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。



- 耐震基準

家の耐震基準を確認する。(平成12年5月31日以前に着工した住宅)

- ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

- プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

芦北町では、現行の建築基準法等で定める耐震性能や安全基準を満たしていない木造戸建住宅及びブロック塀について、住宅の耐震改修に関する費用や道路に面したブロック塀の撤去費用の一部を補助しております。詳しくは、右記問い合わせ先に問い合わせてください。

問合せ先

建設課 建築係 ☎0966-83-9685
(戸建木造住宅の耐震改修について)
建設課 計画係 ☎0966-83-9682
(危険ブロック塀の撤去について)

非

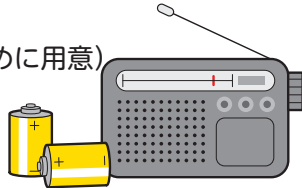
常時持ち出し品等の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。
事前に準備出来ているか、チェック☑しましょう。

非常時持ち出し品 (例)

携帯ラジオ

- ラジオ
- 電池
(多めに用意)



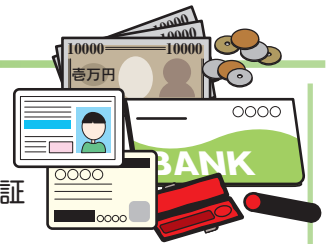
救急医療品

- 常備薬
- 傷薬
- 風邪薬
- 鎮痛剤
- 絆創膏
- 消毒液
- 包帯
- 胃腸薬
- マスク
- 手指消毒液
- おくすり手帳
- 体温計



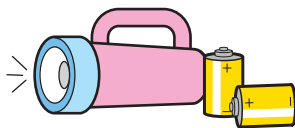
貴重品

- 現金
 - 預金通帳
 - 権利証書
 - マイナンバーカード
 - 資格確認書
 - 印鑑
 - 免許証
- ※マイナンバーカード未保有者



懐中電灯

- 懐中電灯
(できれば一人にひとつ)
- 電池
(多めに用意)



非常食品等

火を通さなくて食べられるもの、食器など

- 非常用食品
- 缶切り
- 紙皿
- 缶詰
- ミネラルウォーター
- 栓抜き
- はし、スプーン等
- 水筒



その他

- 防災マップ(本書)
- 衣類(下着・上着など)
- 生理用品
- ウェットティッシュ
- ヘルメット
- ラップフィルム
(止血や食器にかぶせて使う)
- タオル
- 粉・液体ミルク
- 離乳食
- スリッパ
- 紙おむつ
- ライター
- 携帯電話の充電器
- ナップサック(持ち出し品が入るもの)
- ティッシュ
- カップ
- ビニール袋
- 携帯カイロ
- レスキューシート



非常時用備蓄品 (例)

災害復旧までの数日間(最低3日)を生活できるようにチェック☑しましょう。

飲料水

- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター
(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水した防災タンクなど



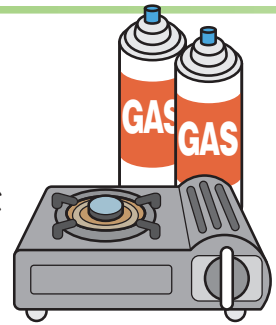
非常食品

- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- カップ麺・インスタントみそ汁など
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)



燃料

- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料



その他

- 携帯トイレ
- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など

災害時には、トイレが使えない場合があります。およそ3割の人が3時間以内にトイレに行きたくなくなるというアンケート結果もあり、実は水や食料よりも先に整えなければならないものです。町でも携帯トイレの備蓄は行っていますが、大規模災害時に皆様にいきわたるか分かりません。皆様も携帯トイレの備蓄をお願いいたします。



定期
点検!

非常時持ち出し品や非常時用備蓄品は、定期的に点検を!

使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。
とくに食品や飲料水の賞味期限はまめにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。



避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具(マジックなど)、スコップなど。

熊本地震で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ブルーシート、新聞紙、補助用具としてロープ、スコップ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

まもとマイタイムラインシート

家族構成	人(一緒に避難: 人)	自宅の災害リスク
	避難先の名称(施設など)	移動時間
		対象とする災害(○を付ける)
		洪水 内水 土砂 高潮 地震 津波 火山 その他
避難先①		分
避難先②		分
緊急避難①		分
緊急避難②		分

わたしと家族の避難行動

【避難訓練】 月 日 訓練に参加

平時の備え

【防災情報】

【避難準備】 右頁の避難する時の「服装」「持ち出し品」「備蓄品」を準備

【その他】

警戒レベル
1

(2~3日前) レベル1 早期注意情報 (警報級の可能性)

警戒レベル
2

(気象状況が悪くなる) レベル2 大雨・氾濫・土砂災害・高潮注意報

※高潮と火山のリスクがある人と台風の暴風で自主避難する人

(警戒レベル3相当情報を記入)

警戒レベル
3

発表 時ごろ レベル3 大雨・氾濫・土砂災害・高潮警報

(災害のおそれあり) 高齢者等避難

避難スイッチ

(警戒レベル4相当情報を記入)

警戒レベル
4

見込 時ごろ レベル4 大雨危険・氾濫危険・土砂災害危険・高潮危険警報

(災害のおそれ高い) 避難指示

避難スイッチ

【ポイント】
警戒レベル3(相当)の発表時間をメモし、夜間に警戒レベル4(相当)となる見込みの場合は、避難開始の時間を早める

警戒レベル
5

レベル5 大雨特別・氾濫特別・土砂災害特別・高潮特別警報

(災害発生又は切迫) 緊急安全確保

(発生後)

★もし、避難できていない場合は、緊急的に安全を確保できる場所や建物の2階以上に移動

【家族の連絡先や行動】 ※避難する時に一緒にいないことも想定して書いてください。

名前	携帯電話番号	自宅以外の主な滞在場所(職場・学校など)	電話番号	もしものときの合流場所・連絡方法など

【避難の準備】 ※あらゆる災害を想定し、日ごろから準備しておきましょう。

①避難する時の服装

安全で動きやすい服装を一つにまとめておく(寒い時期は、防寒対策も十分に行う)
リュックなどの両手が自由に使える持ちやすいバッグを選ぶ
大雨で道路や歩道が浸水している場合に備えて運動靴を選ぶ(長靴は水が中に入ると歩きにくくなる)

②避難する時の持ち出し品 ※基本的な品目をチェックし、各自で追加・削除してください。

現金	通帳・印鑑	資格確認書(マイナンバーカード未保有者)	免許証
懐中電灯/ランタン	乾電池/バッテリー	携帯電話充電器	(ウェット)ティッシュ
飲料水	食料(保存食など)	下着・衣類	靴
防寒着	毛布/寝袋	タオル	眼鏡・コンタクト保存液
薬・お薬手帳	ハブラシ	生理用品	マスク
マイナンバーカード			

③備蓄品リスト ※基本的な品目をチェックし、各自で追加してください。

保存食	インスタント食品	飲料水	給水ポリタンク
紙皿・紙コップ	ラップ	割り箸	ビニール袋
(ウェット)ティッシュ	タオル	簡易トイレ	

【地震と津波の避難行動】

【防災訓練】 月 日 訓練に参加

平時の備え

【避難先】 地震と津波の避難先を次表の「避難開始」の下にそれぞれ記入

【避難準備】 上記の避難する時の「服装」「持ち出し品」「備蓄品」を準備

いつ起きるかわからない

地震発生(強い揺れ)

発生後 津波や地震活動に備える

★3つの安全確保行動 (まず低く・頭を守り・動かない)

- 一緒にいる人の安否確認

<自宅が損壊した(損壊するおそれがある)場合>

◎避難開始

避難先: 〇()分

(津波浸水想定区域にお住まいの方)

津波警報・大津波警報の発表

◎避難開始 (とにかく安全な場所へ)

※津波到着まで時間がある場合は、避難先: 〇()分

※津波到着まで猶予がない場合は、緊急避難先: 〇()分

河川氾濫・土砂

大雨などにより、川の水量の増加や地中にしみこんだ水分などが起因となり、大きな災害に発展する場合があります。

事前にその災害のメカニズムを理解し、身近に起こりえる災害に対応しましょう。

河川氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



内水氾濫

大雨などによって下水道や排水路の能力を超え、雨水がうまく排水できずに道路や住宅地であふれておきる。自宅付近に河川がない場合でも発生する可能性があるため、注意が必要。



土砂災害

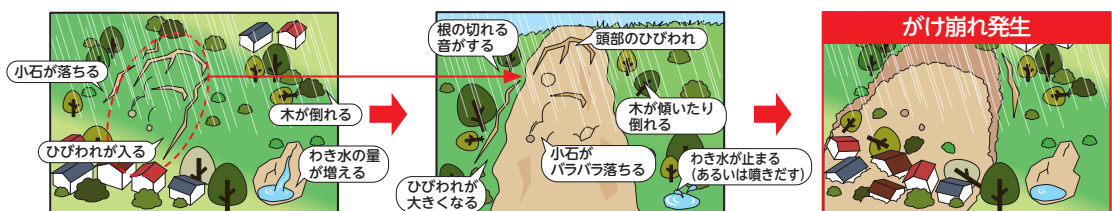
防災気象情報【土砂災害】のレベル4土砂災害危険警報は、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに熊本地方気象台が発表しています。

土砂災害の危険がある地域にお住まいの人は、特に早めの避難が重要ですので、防災気象情報を避難の参考にしてください。

レベル4土砂災害危険警報が発表されていなくても、下の図のような土砂災害の前兆に気づいた場合には、直ちに周りの人と安全な場所に避難し、芦北町役場までご連絡ください。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



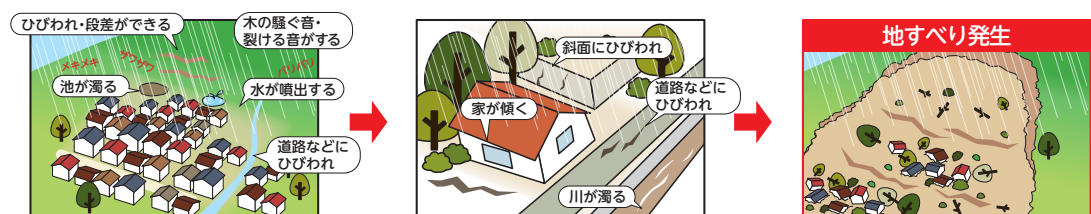
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土壌量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

大雨

気象防災速報・気象解説情報

Check!! この情報が出たら、すぐ動いて！
「気象防災速報」 ※ 極端な現象を速報的に伝える情報(府県単位でのみ発表)

災害発生の危険度が高まっている状況で、警戒感を一段高めて速やかな防災対応や行動の判断を後押しする情報です。

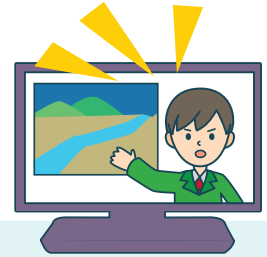
この情報が発表されたら、キキルなどの他の防災気象情報や、自治体が発令する避難情報にも留意し、身の安全を確保してください。



- 一例
- 気象防災速報(線状降水帯発生)
 - 気象防災速報(記録的短時間大雨)

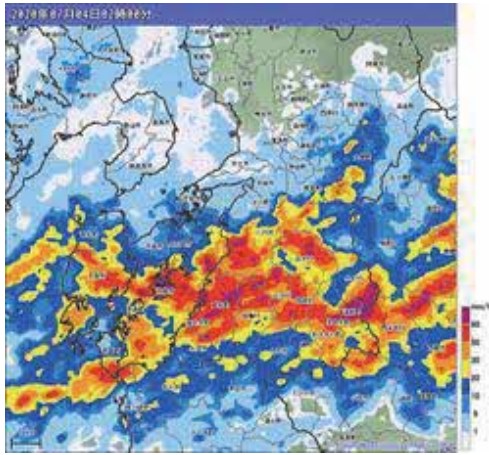
point!! 備えは「早め」が安心！
「気象解説情報」 ※ 現在・今後の気象状況を網羅的に解説する情報(全国・地方・府県単位で発表)

現在の気象状況と今後の見込みを伝え、災害への備えや今後の行動の検討や判断を後押しする情報です。



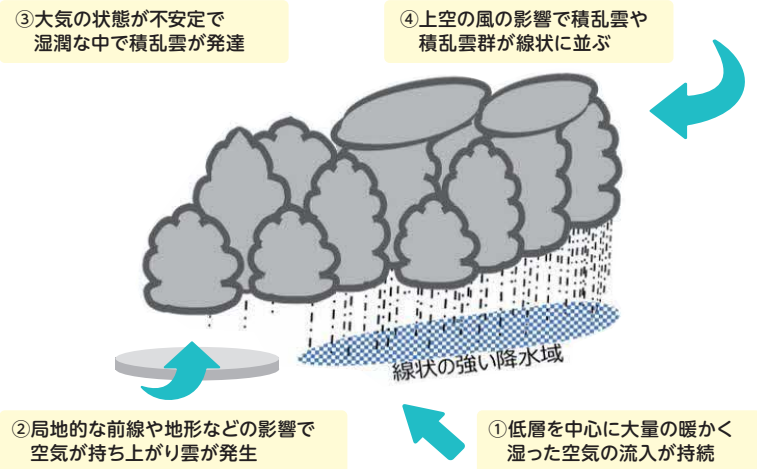
- 一例
- 気象解説情報(台風第〇号)
 - 気象解説情報(線状降水帯半日前予測)

線状降水帯の例(熊本県の令和2年7月豪雨)



出典：気象庁(熊本県・鹿児島県に大雨特別警報を発表した頃の気象レーダ)

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図



早期の立退き避難が必要な区域

早期に立ち退きが必要な区域として、家屋倒壊等氾濫想定区域及び浸水深3.0m以上が想定される区域を表示しています。「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、堤防沿いの地域等において、**洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域**です。

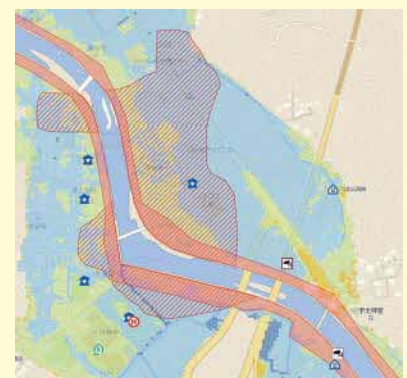
また、「浸水深3.0m以上」とは、**1階の軒下までつかう程度の高さ**となりますので、垂直避難よりも早期の立退き避難が必要となります。町からの避難情報に注意し、危険を感じたらすぐに避難してください。

ただし、夜間や避難路が水没している場合など外出が危険な場合には無理な避難行動は危険ですので、切迫した状況では、屋内の2階以上に垂直避難してください。

洪水時に早期の立退きが必要な区域

浸水想定区域で浸水深3.0m以上	家屋倒壊等氾濫想定区域
<ul style="list-style-type: none"> 20.0m以上の区域 10.0m～20.0m未満の区域 5.0m～10.0m未満の区域 3.0m～5.0m未満の区域 	

表記例



これらの区域は早期の立退き避難が必要です。
 災害時は、避難情報などに従って
 当該区域から安全な場所に速やかに、確実に避難してください。



左記QRコードより芦北町総合防災マップ(Web版)の「家屋倒壊等氾濫想定区域」を選択すると当該区域を確認することができます。

台風

強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
普段から気象情報に十分注意しましょう。

風の強さと吹き方

平均風速(m/秒)	10 以上～15 未満	15 以上～20 未満	20 以上～25 未満	25 以上～30 未満	30 以上～
予報用語	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	屋外での行動は極めて危険。	

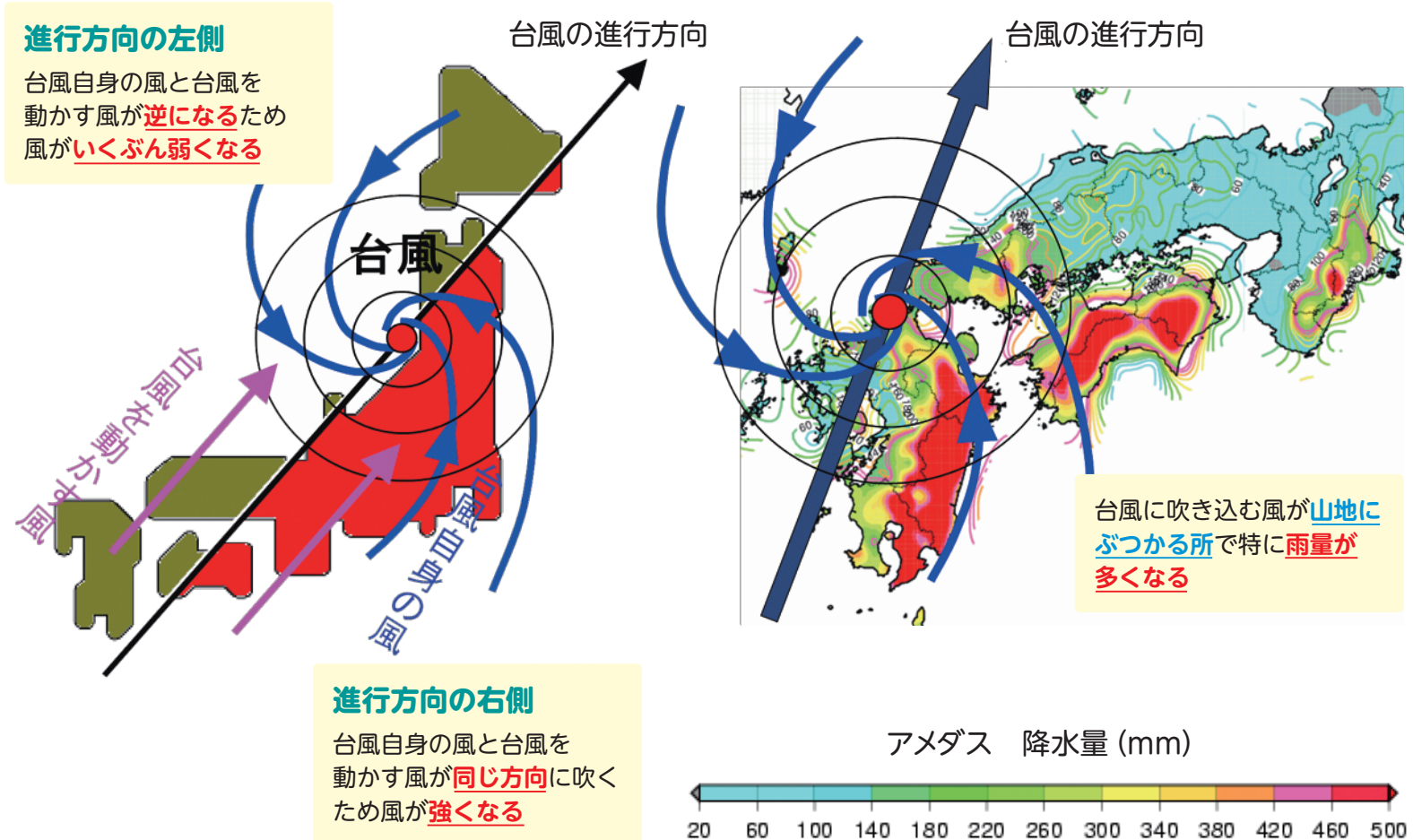
台風のおおきさと強さ

おおきさ	風速 15m/秒 以上の半径
大型(おおきい)	500km 以上～800km 未満
超大型(非常におおきい)	800km 以上

強さ	最大風速
強い	33m/秒 以上～44m/秒 未満
非常に強い	44m/秒 以上～54m/秒 未満
猛烈な	54m/秒 以上

台風の進路と風・雨の強まり

台風は、毎年のように日本に襲来し、きわめて大きな災害をもたらすことがあります。
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。



熊本県では、台風による暴風・高潮害は“西側すぐ近く”を北上する台風が最も危険!

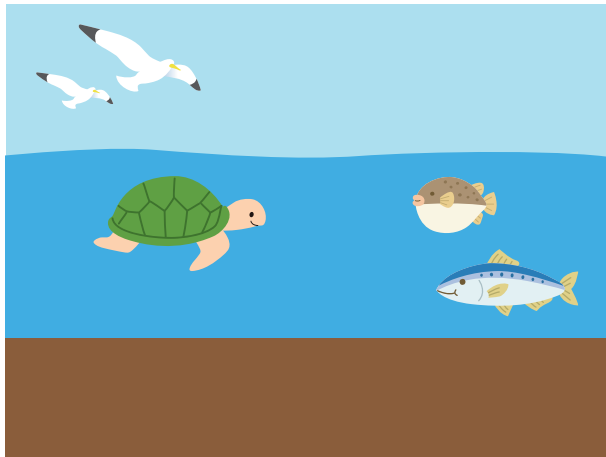
津波・高潮

津波に関する基礎知識

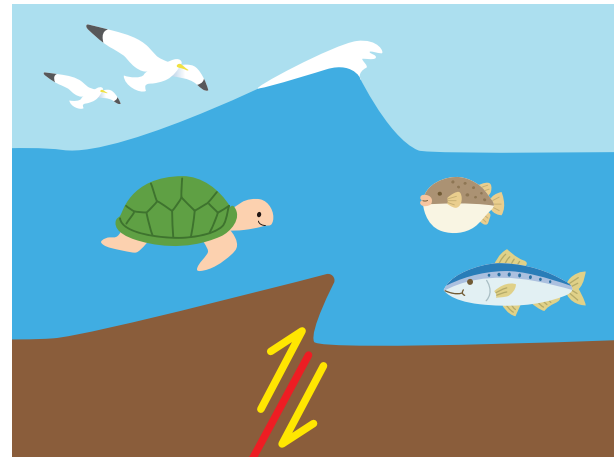
津波のほとんどは海域で大地震が発生することにより発生します。

地震により、海底地盤が広範囲にわたって破壊され、急激な海底の上下運動により海面の凹凸が生じ、それが津波となって伝わります。

また、まれに海底地滑りや火山噴火に伴い、大量の土砂やマグマが海底にすべり落ちることにより海水が変動し、津波となって襲ってくることもあります。



[平常の海]



[地震発生時]

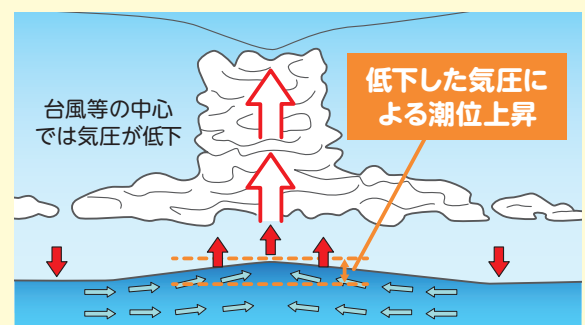
高潮に関する基礎知識

高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮と高潮が重なると高潮水位はいっそう上昇して、大きな災害が発生しやすくなります。

気圧低下による吸い上げ効果

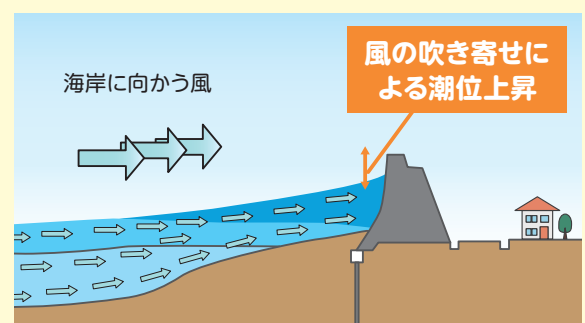
台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気は海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用する結果、海面が上昇します。気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1cm上昇すると言われています。

例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風の中心付近では海面は約50cm高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。



風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。また遠浅の海や、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。

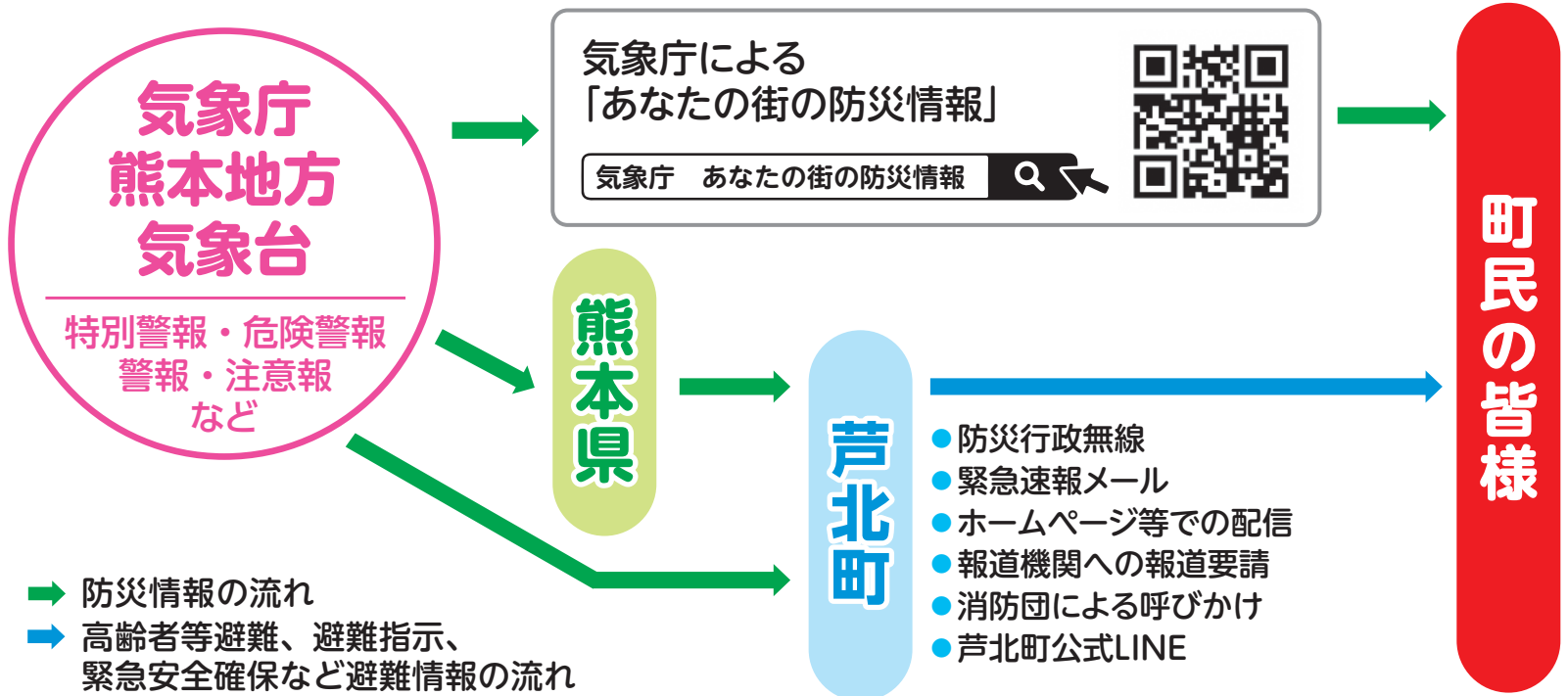


防 災・避難情報と警戒レベル

町では、皆様の生命に危険が及ぶ可能性があるとして判断した場合、警戒レベル3(高齢者等避難)警戒レベル4(避難指示)及び警戒レベル5(緊急安全確保)の避難情報を発令し、避難を促します。避難情報などを発令するときは、さまざまな状況を総合的に判断して発令します。

防災情報・避難情報の流れ

災害に関する注意報や警報が発表されたら、町からの避難情報の発令に注意してください。



警戒レベルと住民が取るべき行動

	大雨 低地の浸水や 大河川以外の氾濫	河川氾濫 1級河川などの 大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地の がけ崩れや土石流	高潮 海水面の上昇や 高波による浸水	住民が取るべき行動 【避難情報】
5	レベル5 大雨特別警報	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保! 【緊急安全確保】
<警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難!>					
4	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難 【避難指示】
3	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は 早めに避難、避難の準備など 【高齢者等避難】
2	レベル2 大雨注意報	レベル2 氾濫注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認(避難場所や避難 ルート、避難のタイミングなど)
1	早期注意情報				災害への心構えを高める

※令和8年度出水期から運用開始予定の「新たな防災気象情報」となります。

過

去の芦北町の災害

- ✓芦北町では、過去に地震や風水害など、規模の大小はありますが、多くの災害に見舞われています。
- ✓特に、令和2年7月豪雨災害は、人的被害を含めて甚大な被害を受けました。
- ✓人的被害を防ぐには、早めの避難が重要です。 **「逃げ遅れゼロ」を目指しましょう！**

発生年月日	種別	内容《主なもの》
S38.8.18	豪雨	住家全壊1戸、半壊6戸、床上浸水157戸、床下浸水313戸 (災害救助法適用)
S40.8.6	台風	重傷2名、軽傷5名、住家全壊41戸、半壊332戸、床上浸水4戸 床下浸水3戸、みかん園被害 1億1千600万円(災害救助法適用、激甚災害)
S57.7.12	豪雨	死者1名、重傷者1名、軽傷者2名、住家全壊4戸、半壊14戸、床上浸水149戸 床下浸水210戸 491mm/日 被害額43億8千万円 (災害救助法適用)
H24.7.12	豪雨	床上浸水39戸、床下浸水112戸、公共土木被害410件 農林水産被害316件 415.5mm/日 時間最大121.5mm
H27.8.24	台風	死者1名、住家被害243件 最大瞬間風速 52.8m/s
H28.4.14・16	地震	熊本地震 震度5強1回、震度5弱1回、震度4 4回 罹災住家42件(半壊4件、一部損壊38件)

令和2年7月豪雨災害

- 7月4日未明から朝にかけて猛烈な雨が降り、線状降水帯も発生し、熊本県南部で記録的な大雨となりました。
- 3時20分に記録的短時間大雨情報(解析雨量110ミリ)、4時50分に大雨特別警報が発表されました。
- 24時間降水量:485ミリ 1時間最大:92ミリ ※災害救助法適用・激甚災害指定

被害の概要

- 死者 11名 行方不明者 1名
- 浸水面積 500ha
- 住家等の被害 2,700棟
- 町道路・河川等被害 1,000か所
- 土砂災害被害 330か所
- 農地・農業用施設被害 1,200か所



広範囲に浸水した町中心部



道路陥没



消防団による復旧活動



氾濫した球磨川



土砂崩れ



自衛隊ヘリによる救助

地震

影響が想定される地震

熊本県には、布田川断層帯や日奈久断層帯のほか、人吉盆地南縁断層、出水断層帯を始め、多くの活断層が存在しています。

平成28年に発生した熊本地震の震源は、布田川・日奈久断層と言われています。

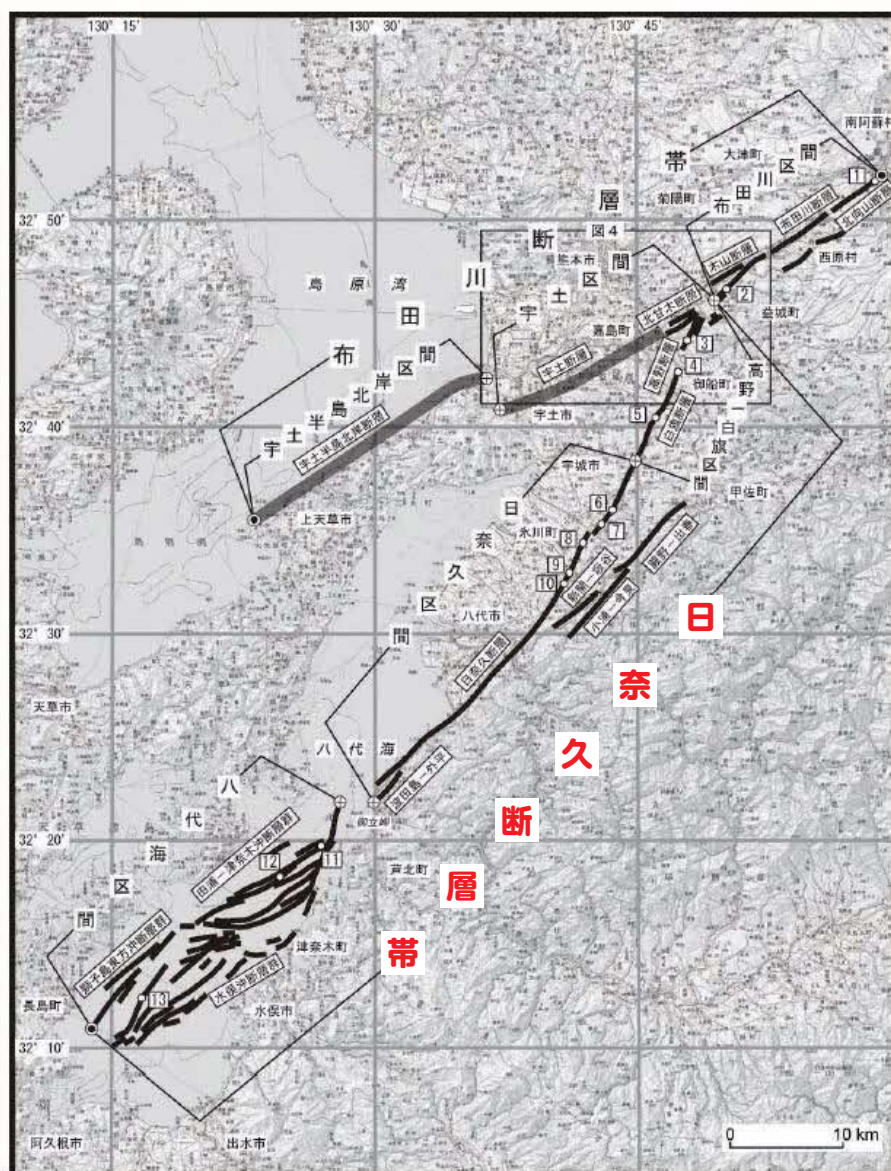
耐震改修促進計画策定に際しては、「①地域の活断層、②海溝型巨大地震及び③全国どこでも起こりうる直下型地震」に対して地盤挙動を検討することになっています。

熊本県では、地震・津波被害想定調査報告書において、上記の地盤挙動を検討しており、それらの中から当町に影響を与える地震の断層を右の図、規模と発生確率を下の表に記載しています。

またその中でも当町に最も影響を与える可能性があるのが赤字で強調している日奈久断層帯です。

上記の①に係わる地震は、下表に示すことが出来ます。②の地震は、「南海トラフ巨大地震」です。③の地震は、中央防災会議において地震に対応する活断層が地表で認められない場所で起こることが想定される地震としています。これは、過去の事例と防災上の観点から、地震規模の上限をマグニチュード6台の最大6.9としたものを言います。

検討対象とする地震の断層



検討対象とする地震の規模と発生確率

断層帯名	長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	ランク(注)	地震発生確率			平均活動間隔
			30年以内	50年以内	100年以内	最新活動時期
① 布田川断層帯(宇土半島北岸区間)	7.2程度以上	Xランク	不明	不明	不明	不明
② 布田川断層帯(宇土区間)	7.0程度	Xランク	不明	不明	不明	不明
③ 布田川断層帯(布田川区間)	7.0程度	Zランク	ほぼ0%	ほぼ0%	ほぼ0%	8,100年~26,000年程度 平成28年(2016年)熊本地震
④ 日奈久断層帯(八代海区間)	7.3程度	S*ランク	ほぼ0~16%	ほぼ0~30%	ほぼ0~50%	1,100年~6,400年程度 約1,700年前以後~約900年前以前
⑤ 日奈久断層帯(日奈久区間)	7.5程度	S*ランク	ほぼ0~6%	ほぼ0~10%	ほぼ0~20%	3,600年~11,000年程度 約8,400年前以後~約2,000年前以前
⑥ 日奈久断層帯(高野-白旗区間)	6.8程度	Xランク	不明	不明	不明	不明 約1,600年前以後~約1,200年前以前

出典:地震調査研究推進本部「活断層及び海溝型地震の長期評価結果一覧(2026年1月1日での算定)」より抜粋

注:活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、

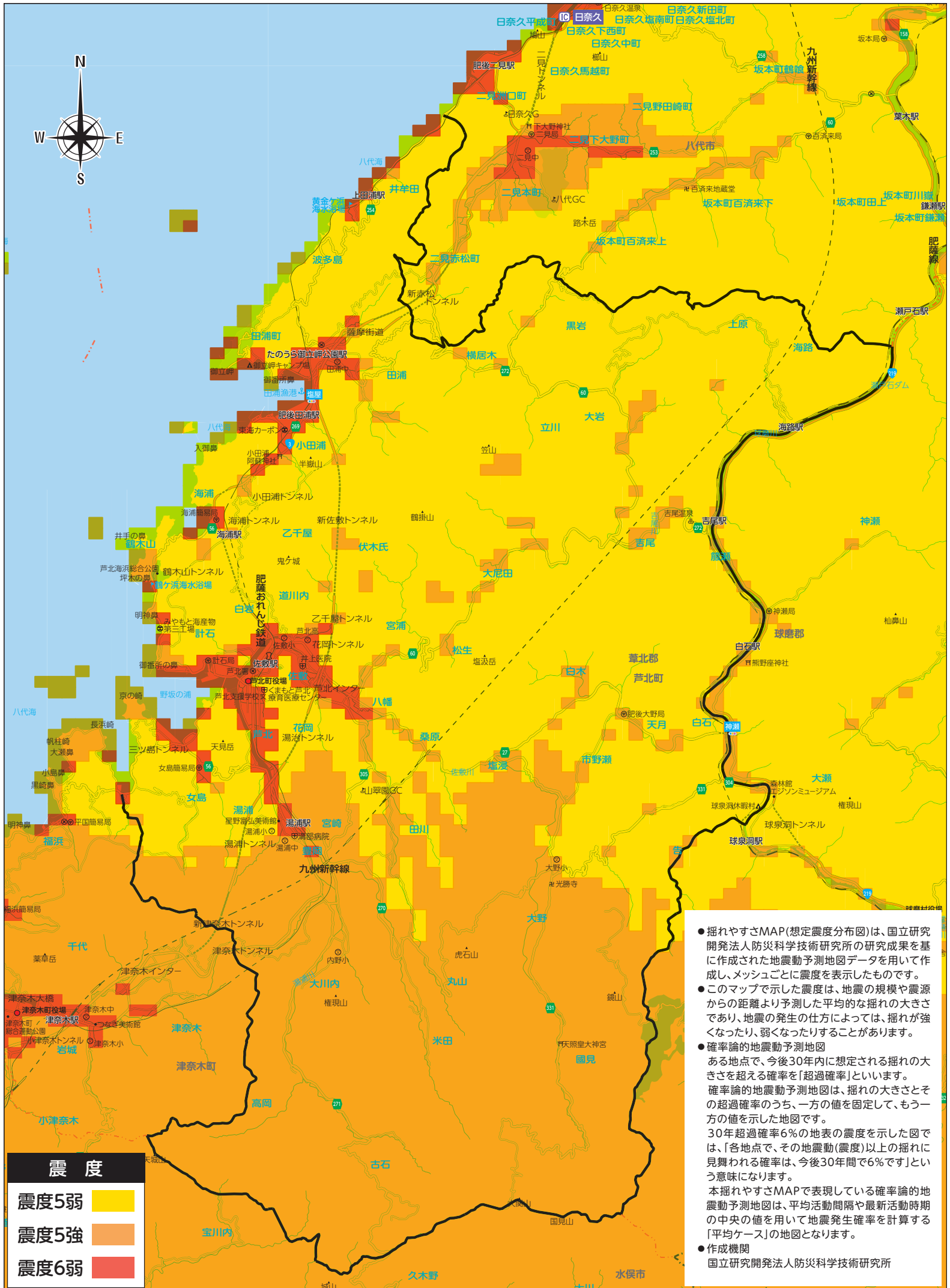
0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。

:地震後経過率が0.7以上である活断層については、ランクに「」を付記している。

揺

れやすさマップ

このMAPは、今後30年間に6%の確率で一定の揺れに見舞われる計測震度の領域図になります。



火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1. 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求め。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2. 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。



火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。

衣類

着衣に火がついたら転げまわって消す。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。

ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。

3. 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを開けて空気を絶つ。



消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



感震ブレーカー

地震による災害では、揺れによる家屋倒壊や土砂崩れ等だけでなく、通電火災も住民が負傷する大きな原因となっています。通電火災は、地震による停電により停止していた電化製品が、復旧し再び通電した際に発生する火災です。通電火災などの電気火災対策には、感震ブレーカーが効果的です。

感震ブレーカーは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段となります。

注意事項

地震はいつ発生するか分からないため、夜中に発生した場合、感震ブレーカーが作動し住家内のすべての電源がOFFになります。部屋中が暗闇になりますので、避難経路の確保などの注意が必要です。
また、人工呼吸器などの生命維持装置を使用している人や仕事上常に稼働し続ける必要があるサーバーを設置しているなど、電気が止まると困る人は停電対策が必要となる場合もあり、感震ブレーカーの設置と同時にデメリットについても併せて考えておく必要があります。

火災予防が一番!!

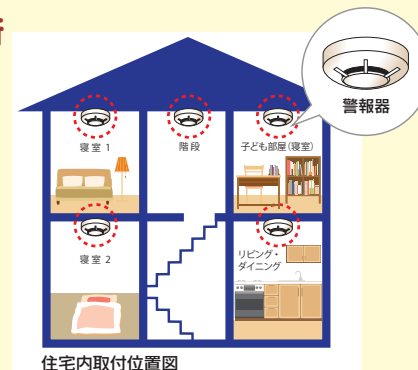
住宅用火災警報器の設置義務化

- 消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

火災による死傷者を無くすためにも必ず設置しましょう。

●火災警報器の設置場所

- 寝室…すべての寝室(子供部屋や高齢者の居室など就寝に使われている場合は対象となります)への設置が必要です。
- 階段…寝室のある部屋の階段の天井などへの設置が必要です。
- 台所…台所への設置もお勧めします。



※芦北町では、感震ブレーカーと火災警報器の普及のために設置費用の一部を補助しております。詳しくは、右記問い合わせ先に問い合わせください。 問い合わせ先:総務課 危機管理防災室 TEL:0966-83-9641

自

主防災組織

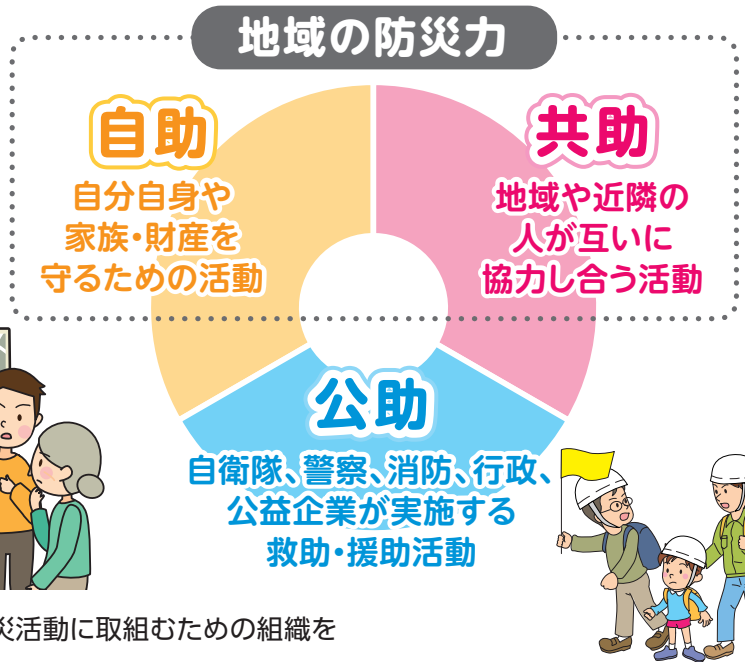
災害に強い地域をつくりませんか？

地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。

ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える(自助)とともに、地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めませんか？



1 自主防災組織とは？

- 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。

2 なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備(=体制づくり)が重要です。

3 地区防災計画の推進

- 私たちの地域の安全を守るため、子ども達や高齢者等を守るため、地区防災計画の作成をお願いします。危機管理防災室にご相談いただければお手伝いいたします。

各班の日頃(平常時)と緊急時(災害発生時)の活動内容は概ね次のような役割になります。(例)

	本部	情報班	消火班	避難誘導班	救出救護班	給食・給水班
平常時	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区防災計画の作成、見直し ● 防災意識の啓発 ● 防災訓練の計画・実施・評価等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民に対しての連絡体制、手段の検討 ● 情報収集・伝達訓練の実施・指導 ● 地域内の災害危険箇所の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団等と連携した初期消火訓練の実施 ● 消火用水の確保、確認 ● 出火防止の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に避難路、避難場所を把握(予備を含む。) ● 避難誘導訓練の実施 ● 避難路の安全点検 ● 危険箇所(がけ、ブロック塀)などの確認等 ● 避難行動要支援者の把握、避難要領の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 衛生救護知識の普及・啓発 ● 応急医薬品・救助用資機材の点検・確保 ● 衛生ノウハウ保有者の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料、飲料水の個人備蓄についての普及啓発 ● 炊き出し訓練の実施 ● 炊き出し用資機材の確保、点検 ● 食品等の衛生・管理
緊急時	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主防災組織内各班の指揮(運用・統制) ● 地域住民の安否確認 ● 町及び関係機関との連携確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害情報を住民に対して正確かつ迅速に伝達 ● 地域内の被害情報を収集し本部へ報告 ● 危険箇所の把握、表示等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 初期消火活動 ● ※消防署、消防団の到着までの延焼拡大を防ぐのが基本ですので無理はしないこと!! ● 情報班と連携しての出火防止等の広報 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本部と連携しての避難の呼びかけ ● 安全な経路を選択しての避難誘導 ● 避難行動要支援者の避難支援 ● 避難地での安否確認 ● 安否確認による救出救護班への情報伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難誘導班と連携しての速やかな救出 ● ※救出活動は危険を伴う場合があるため、二次災害に十分注意すること!! ● 負傷者の搬送、応急手当の救護 ● 避難所・救護所での救護活動への協力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食料や水、救援物資等の受入れ、配付 ● 必要に応じて炊き出し ● 炊き出し時の衛生管理

防

災避難マップ(地区防災計画)の作成支援

平時の見守りと有事の逃げ遅れゼロを見える化します。

「支え合いマップ」で見える化!

お茶のみ等、日頃のお付き合い

買い物支援



声かけ・見守り



ゴミ出し支援



「支え合いマップ」で明らかになった
要支援者の命を守るために「防災避難マップ」を作成!

「防災避難マップ」で見える化!

要支援者の
避難支援



避難経路・
避難要領



避難目標
(避難所等)



⚠️ 危険地域 ⚠️



説明会



マップの作成



現地確認



社会福祉協議会と町役場で作成を支援します。
地域の皆様の協力のもと楽しく作成します♪

問合せ先

芦北町役場

芦北町社会福祉協議会

総務課

総務課

危機管理防災室

地域福祉係

☎0966-83-9641

☎0966-86-0294

芦

北町災害用備蓄物資について

- 芦北町では、「芦北町地域防災計画」に基づき、大規模災害時に備え、水、食料等の備蓄を計画的に行い、避難所や防災倉庫に備蓄しています。
- また、避難所における個人のスペース及びプライバシーを確保するため、簡易ベッド、簡易テント(間仕切り)などの備蓄も行っています。

★大規模災害時は、物資が不足することが予想されます。町民の皆様も自助として3日分程度の食料品などの備蓄のご協力をお願いします。

主な備蓄物資のイメージ

水・アルファ米等



簡易ベッド・簡易テント(間仕切り)等



簡易トイレ・生理用品等



防災倉庫 町内に11基設置



災害用トイレの備蓄

家庭やオフィスなど

携帯トイレ



●携帯トイレの特徴

- 災害で断水しても建物内のトイレを利用可能
- 袋の中に吸収シートや凝固剤を入れて、大小便を固めることができ、使用後は可燃ごみとして廃棄可能(芦北町の場合)
- サイズがコンパクトで備蓄が容易

災害用トイレとして真っ先に思いつく仮設トイレが、避難所にすぐには届くとは限りません。東日本大震災の時には、避難所に行きわたるまで3日以内と回答した自治体は3割でした。災害時には携帯トイレ、簡易トイレ、マンホールトイレも使いながら、トイレ環境を確保することが大切です。防災訓練等に参加し、どんな災害用トイレがあるのか、どのように使うのか、確認・体験しましょう。

指

定避難所一覧

番号	避難施設	
1	芦北町地域活性化センター	主要5ヶ所
2	芦北町地域資源活用総合交流促進施設(交流センター)	
3	町立公民館大野分館	
4	吉尾出張所	
5	きずなの里	
6	小田浦地区生涯学習センター(校舎)	追加開設5ヶ所
7	芦北町民総合センター	
8	大野地区構造改善センター	
9	女島活力推進センターゆめもやい	
10	芦北町多目的研修センター	

大雨が予想される場合

や町が避難情報を発令する場合に
1～10の避難所を開設
※気象情報により、開設数が増減する
場合があります。

11	芦北福祉センター(ペット同行避難所)
12	上田浦地区社会教育センター
13	下井牟田地区ふれあいセンター
14	上井牟田地区ふれあいセンター
15	田浦中学校(校舎、体育館)
16	田浦小学校(校舎、体育館)
17	小田浦福祉センター
18	宮浦地区ふれあいセンター
19	旧芦北幼稚園(体育館・校舎)
20	海浦地区公民館
21	県立あしきた青少年の家
22	大尼田地区生涯学習センター(校舎、体育館)
23	旧計石小学校(校舎、体育館)
24	佐敷小学校(校舎、体育館)
25	県立芦北高等学校
26	佐敷中学校(校舎、体育館)
27	内野小学校(校舎、体育館)
28	丸米地区生涯学習センター(体育館)
29	湯浦小学校(校舎、体育館)
30	湯浦中学校(校舎、体育館)
31	内野福祉センター
32	古石地区生涯学習センターみどりの里
33	大野小学校(校舎、体育館)
34	大岩公民館
35	吉尾体育館

大型台風

の接近が予想される場合
地震の発生により大きな被害の発生が
予想される場合

避難所が不足する場合
1～10の避難所に加え状況に応じて開設
※全ての避難所が開設するわけでは
ありません。
開設する避難所は、状況に応じて
変わります。

津波・高潮の指定緊急避難場所

御立岬管理棟(駐車場)	芦北町役場2階
田浦支所2階	佐敷城跡
黒崎霊園(田浦地区)	沖農村公園(女島地区)
芦北海浜公園の高台	大龍神社(計石地区)

- 災害時の避難所開設状況については、防災行政無線や町ホームページ、町の公式LINEを確認してください。

避難行動について

「避難行動とは」自然災害等から「命を守るための行動」です。次の①～③の選択肢があります。

- ①「町指定の避難場所等」へ避難
- ②「近隣の安全な場所」へ避難
(親戚宅、公民館等)
- ③「屋内安全確保」
(自宅の2階等より安全な部屋)

※自宅において、どのような災害が
予想されるか事前に確認しましょう。

※この他、行政区長や自主防災組織の判断により、安全が確保できる
最寄りの集会所・公民館などを「自主避難所」として
開設することができます。

避

難所の利用について

避難所では限られたスペースでの共同生活となりますので、マナーやルールを守ることが大切です。避難者同士のプライバシーを守りながら、譲り合いの心を持って助け合い、協力、配慮が必要です。

共同生活の注意点

所持品

- 避難所には多くの人が避難してこられます。トラブルにならないよう所持品に名前を書きましょう。
- 避難している避難所から別の避難所へ避難しなければならない場合があります。所持品は、1箇所にまとめ、すぐに持ち出せるようにしましょう。



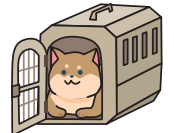
ルール

- 大災害の際は、町職員やボランティアが不足する場合があります。炊き出し、救援物資の受け取り、防犯対策、トイレ掃除など、共同生活に必要な役割は、みんなで協力しましょう。
- 水道が使えない場合は、飲み水や生活水の確保が必要です。配水ポイントのお知らせや配水車が到着するまで大切に使いましょう。
- 障がいのある人や高齢者、妊産婦などには、手助けをしましょう。
- 居住スペースは、個人の家と変わりません。要配慮者や乳幼児のいる家庭には気を配る必要がありますので、個人のプライバシーは守りましょう。
- ゴミは分別し、所定の場所へ持っていきましょう。ゴミには封をして、害虫の発生を防止しましょう。
- 避難所のトイレは多くの人が使用しますので、トイレトイレットペーパーが詰まる可能性があります。トイレを流す際にルールがある場合は、そのルールを守りましょう。
- 避難所は完璧な居住空間ではありません。自分の身は自分で守ることを心がけ、不審者を見つけたら、警察や町職員又は、避難所の管理者、リーダーに連絡しましょう。
- 避難所から別の場所へ移動するときは、必ず避難所にいる職員又は管理者等に一声かけてください。



マナー

- 物資が支給される場合は、慌てず、列に並び、落ち着いて自分の順番を待ちましょう。列に並べない要配慮者への気配りも必要です。物資が少ない場合は、ひとり分を複数人で分ける場合もあります。
- 掃除は定期的に行い、清潔な状態を保ちましょう。室内は土足厳禁とし、布団を敷くスペースと通路を分けましょう。
- 喫煙は、火災防止や受動喫煙防止のため、所定の場所で行いましょう。
- 避難所にはペットが苦手な避難者もいます。ペット同伴の方は、飼い主が責任を持って世話をしましょう。



食中毒

- 食中毒は1年中発生します。調理・盛り付けの前、食材に触った後、トイレの後には石鹸で十分に手を洗いましょう。
- 食器、調理器具にも注意が必要です。使用後や作業が変わるたびに洗浄と消毒を行いましょう。水が使えないときは、使い捨て容器にラップを敷いて使う方法もあります。



感染症対策

- 避難所は集団生活の場となりますので、風邪やインフルエンザなどの感染症が流行しやすくなります。
- 予防対策としては、3密(密閉・密集・密接)を避けこまめにうがいや手洗いや手指消毒を行い、できるだけマスクを付けましょう。排泄物やおう吐物の処理には、必ず使い捨て手袋とビニール袋を使用してください。
- 発熱、下痢など体調のすぐれない方は早目に係にお知らせ下さい。



体調管理

【エコノミークラス症候群】

長時間足を動かさないでいると足の静脈に血栓(血の塊)ができ、歩き出した後などに血栓の一部が血流に運ばれて肺や脳の血管をふさいでしまう病気となります。予防対策としては、体を動かしましょう。座ったままでも足や指のつま先を動かすなど足の運動をしましょう。十分な水分をとり、脱水症状にならないようにしましょう。

【熱中症】

猛暑などで高い温度が長く続き、発汗して水分や塩分を失われる状態や湿度が高い時期に汗が蒸発しないため、体内の熱がこもったままで放出されない状態において、めまい、筋肉痛、頭痛、吐き気、失神、けいれんなどを起こす症状です。予防対策としては、水分をこまめにとりましょう。塩分もほどよくとりましょう。涼しい服装を心がけましょう。室内でも温度に注意しましょう。日陰を利用しましょう。日傘や帽子を使いましょう。



町

からのお知らせ

芦北町公式LINEについて

『災害情報』や『防災行政無線』の内容など芦北町公式LINEで配信します！



登録用QRコード

登録方法

① LINEアプリを起動



スマートフォンのホーム画面内にあるLINEアプリアイコンをタップします

② LINEアプリホーム画面



ホーム内右上にある友達を追加ボタンをタップします

③ 友達を追加画面



上段中央にあるQRコードボタンをタップします

④ QRコード読み取り画面



カメラモードになったら中央に登録用QRコードが入るようにかざします

⑤ 友達を追加画面



QRコードを読み取ると追加画面が表示されるので追加ボタンをタップします

防災行政無線放送アプリ「CosmoCast」



- アプリの利用は無料
- 防災行政無線の放送がスマートフォンで聞けたり、リアルタイムに確認可能！
- 防災行政無線の放送が聞き取りにくい場所や、町外にいても受信可能！
- 受信した放送は過去10件分が保存されるため、何度でも聴き直すことができます。

インストールはこちら▶



App Store



Google



※ マナーモード中、放送は流れません。
 ※ 6:45朝の放送、18:00おくやみ放送、19:30夜の放送が流れます。
 ※ 時報(8:00、12:00、17:00)やその他、緊急時の放送も流れます。

① アプリをインストール



上記QRコードまたは「cosmocast」と検索してアプリをインストール

② アクセス、通知許可を押す



アプリを開くとアクセス許可を求める画面が出る場合があるので、「許可」をタップ
※Androidの場合は「同意する」場合があります。

③ お住まいの郵便番号を登録する



お住まいの住所の郵便番号を入力、「検索」を押して、「登録」を押せば完了

災救マップについて

町の避難所の開設・混雑状況がスマートフォン等で確認できます！

【災救マップ】では、リアルタイムな避難所情報を確認することができます。

下記QRコードからアクセスしてください。



災救マップ



避難所をタップ



開設状況や現在の避難者数がリアルタイムで確認できます！

- その他にも…標高や最寄りの避難所の場所の確認ができます！

緊

急時の連絡先及び防災情報の収集

緊急時の連絡先

消防・救急は**119番** 警察は**110番**

名称	電話番号	名称	電話番号
芦北町役場	0966-82-2511	総務課 危機管理防災室	0966-83-9641
田浦支所	0966-87-1111	芦北消防署	0966-82-4731
湯浦出張所	0966-86-0259	芦北警察署	0966-82-3110
大野出張所	0966-84-0001	九州電力八代営業所	0120-986-606
吉尾出張所	0966-83-0001	NTT(電話の故障)	113

連絡方法の確認

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。

なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

一般社団法人電気通信事業者協会
《災害時の電話の利用方法》

<http://www.tca.or.jp/information/disaster.html>

NTT西日本《災害用伝言ダイヤル171》

<http://www.ntt-west.co.jp/dengon/>

NTTドコモ《災害用伝言板サービス》

<http://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/>

au《災害用伝言板サービス》

<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/>

SoftBank《災害用伝言板サービス》

<https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/boards/>

防災情報の収集

芦北町公式LINEアカウント

防災情報や防災行政無線の内容など、芦北町に関する様々な情報を芦北町公式LINEアカウントから配信します。

ぜひ、登録いただきご活用ください。

https://www.town.ashikita.lg.jp/bosai_site/bosaimusen_bosai/2025056



熊本県統合型防災情報システム

雨量・水位・土石災害危険度情報・潮位などをリアルタイムで提供

<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/>



防災情報くまもと

避難情報、気象情報、地震・津波・火山の情報等を提供

<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/>



キキクル(危険度分布)

大雨による災害の危険度を地図上(全国～自宅周辺)で確認できる「危険度分布」

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>



日常の
心得

災害は、いつ発生するかわかりません。日頃からの備えが大切です。日頃から気象情報について、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどを通じて把握するよう努めましょう。

